学生部門

# 最優秀賞

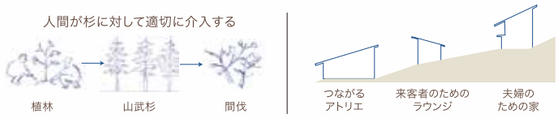
東京理科大学
丸山 周・佐古 統哉

【作品名】
## 借り、整え、還す

### 1 SITE　杉が町を災害から守る千葉県山武市

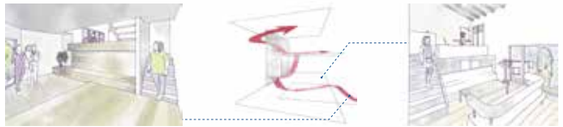
千葉県山武名産の山武杉は非常に堅牢で、その性質故に建築部材とするために植えられた。またよく手入れされた杉林は災害時、根が土砂災害を未然に防ぎ、葉が暴風をやわらげ大きな被害を未然に防ぐ役割も担っていた。しかし近年、手入れの不足や境界木の伐採、メガソーラーの建設による土壌劣化や光害により山武杉林は弱体化し、町を災害から守る力は失われ、逆に台風時に病気の杉の倒木が町に被害を出すまでになった。我々は杉との持続可能な関係をもう一度取り戻さなければならない。

### 2 PROGRAM　杉林を整え適度に消費する




山武杉が健全に生育し、利用可能な資源となるためには人による適度な介入と消費が必要である。山武杉の循環は、あらゆる意味で地域の持続可能性に大きく寄与するキーストーンである。この山の麓の中学校を卒業した夫婦が、セカンドライフとして子どもたちや地域の人たちと木工を通じて関わりあう「つながるアトリエ」「来客者のためのラウンジ」「夫婦のための家」からなる住宅を設計した。地域全体が木に親しみ、木を消費し、そして杉林を手入れすることが地域の持続可能な循環に繋がる。

### 3 SEQUENCE　視線が交錯する動線計画



斜面を登って回り込むような階段動線の先に吹き抜けのリビングが広がる。個のリビングを介して下方のエントランスと上階のダイニング、キッチンからの視線がつながり、彩りのある生活の光景が浮かび上がる。また東西に設けられたバルコニーは生活空間を外に拡張し傾斜地ならではの眺望を心地よく室内に招き入れる。

### 4 SECTION　杉を生かし、杉に生かされる暮らし

### 設計コンセプト

私たちは、サステナブルな循環を地域全体へと拡張させる建築の在り方を提案します。
この住宅の計画地は千葉県山武市の山林です。この地では、人が杉を植え、手入れをし、間伐を行い、伐採し利用してまた育てていくという、杉と人間とのサステナブルな循環が脈々と続いてきました。しかし、この循環は人間が杉の手入れを怠り強引な山林開発を行った数十年の間に崩壊していきました。
今、私たちは積極的に山武杉と関係を持つ暮らしをもう一度考える必要があります。
この住宅は、地域に開かれた「つながるアトリエ」、「来客者のためのラウンジ」、夫婦の暮らしの拠点となる「夫婦のための家」の三分棟で構成されます。三棟をつなぐ基礎は、夏はクールピットとして、冬はヒートチューブとして利用することで、一年を通じて冷暖房負荷の少ない暮らしを実現します。また、間伐材を燃やした際に生じる灰は畑の肥料として利用し、農作を通じた資源の循環を実現します。さらに、「つながるアトリエ」は麓の中学校に通う子どもたちや地域の人々が創作活動を行う場であり、積極的な木材利用を推進するとともに、世代を超えて山林への適度な介入や循環の大切さを学ぶ場となります。
夫婦の暮らしと地域のコミュニティが山武杉を介して接する住宅。杉が根を張り土をつなぎとめていくように、山武杉と人との接点が地域を巻き込んだサステナブルな暮らしをつなぎ、循環させていきます。

### 審査委員講評

昨今、なにかと厄介者扱いされている杉の木と人間がいい関係を構築するには？その問いに具体的に答えてくれています。プロジェクト全体を説明する断面図のイラストはとても見やすく、わかりやすいものです。いくら独創性に富んだアイデアでも、それを人に伝える技が稚拙であれば意味がありません。その点、この作品は秀逸です。